



社会と生物多様性： つながりの理解に向けて

私たちの生活は生物多様性がもたらす様々な恵みのもとに成り立つのみならず、生物相を形成する要因の多くが人間活動に発し、社会－生態システムを形成しています。長期的で俯瞰した視座から社会を望ましい未来に繋げるための提言をおこないます。

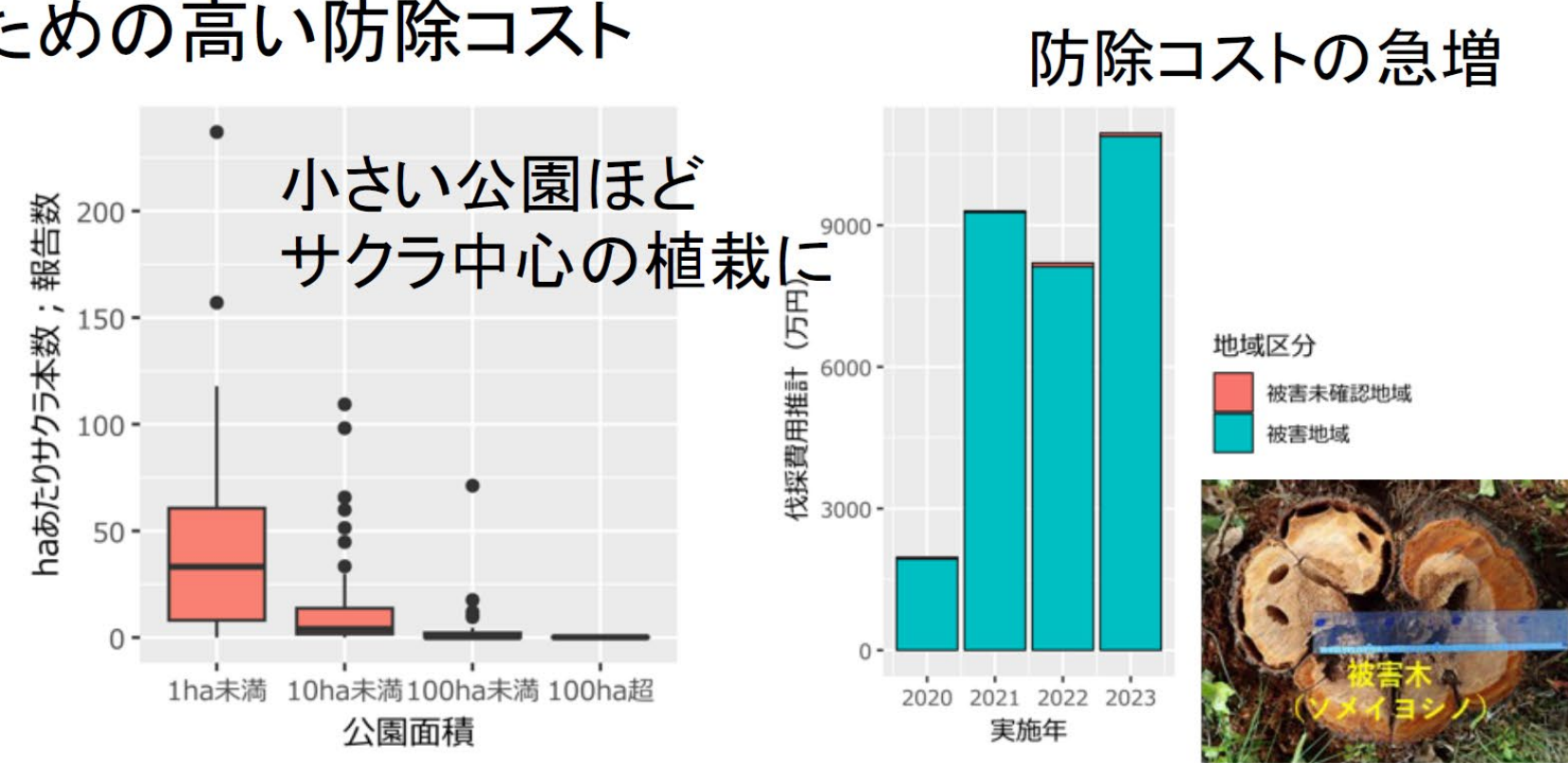
背景：生物多様性に迫る四つの危機の根本にあるもの

- 四つの危機に対して様々な対策が講じられているものの解決に向かわない原因は、それらが社会・経済の構造と密接に結びついていることに求めることができます。
- 都市への人口集中の結果としてダムや水門による精緻な水管理や物流の高度化、緑地減少と画一化、ヒートアイランドといった、都市特有の自然環境が生じ、これらが外来生物に代表される特定の生物種以外が棲みづらい状況をもたらします。

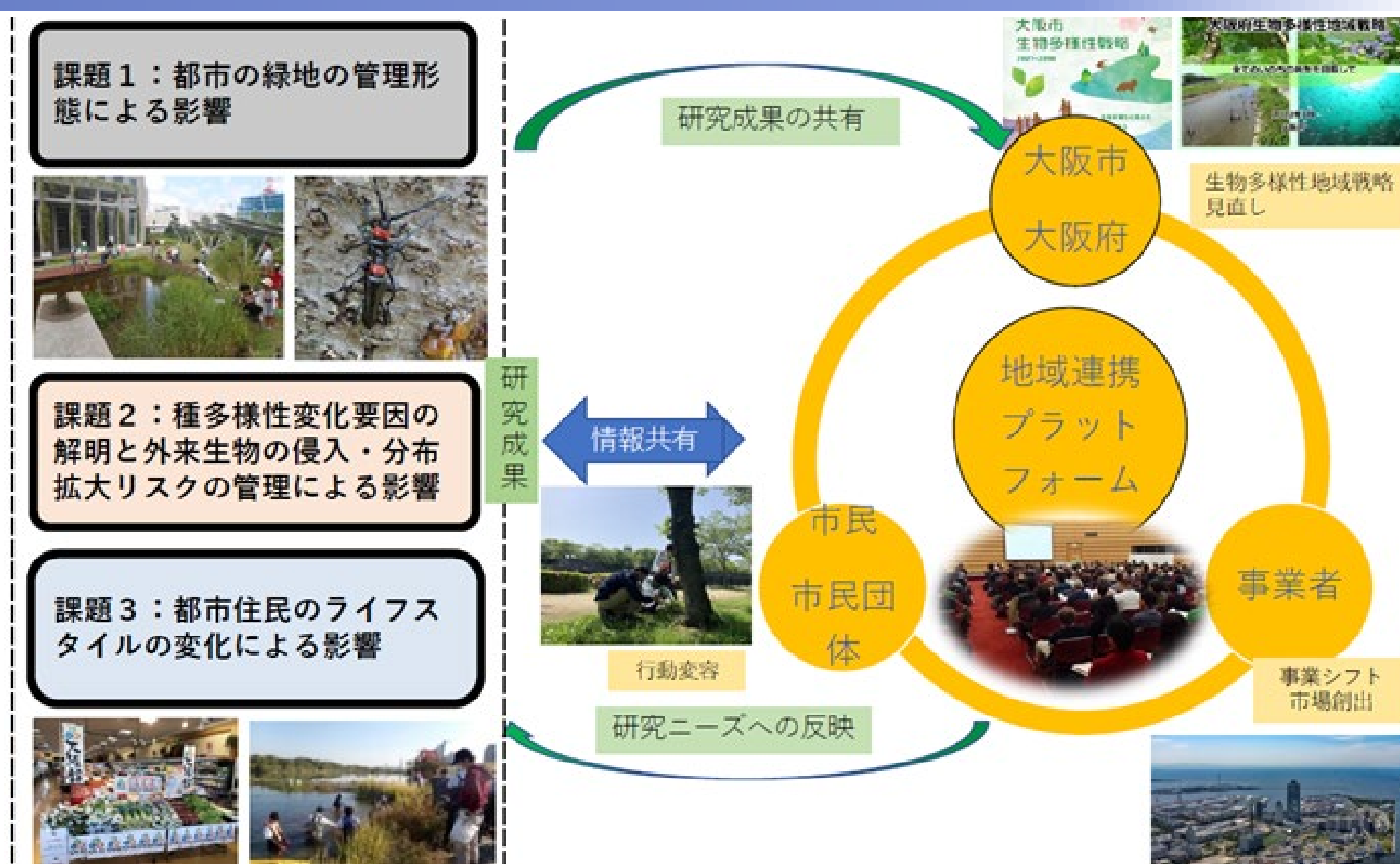
重点：都市緑地の管理を軸とした課題、特に外来生物と生物多様性の減少

- クビアカツヤカミキリを例に、都市緑地の画一化が外来生物蔓延の誘因であり、解決のために緑地管理方策の見直しも必要であることを提言します。

- ・ 都市公園等のサクラを食害するクビアカツヤカミキリ(外来生物)の急速な分布拡大
- ・ サクラの高密植栽(至近的な住民福祉の優先)や当事者意識の欠如などが原因に
- ・ サクラのある都市景観維持のための高い防除コスト

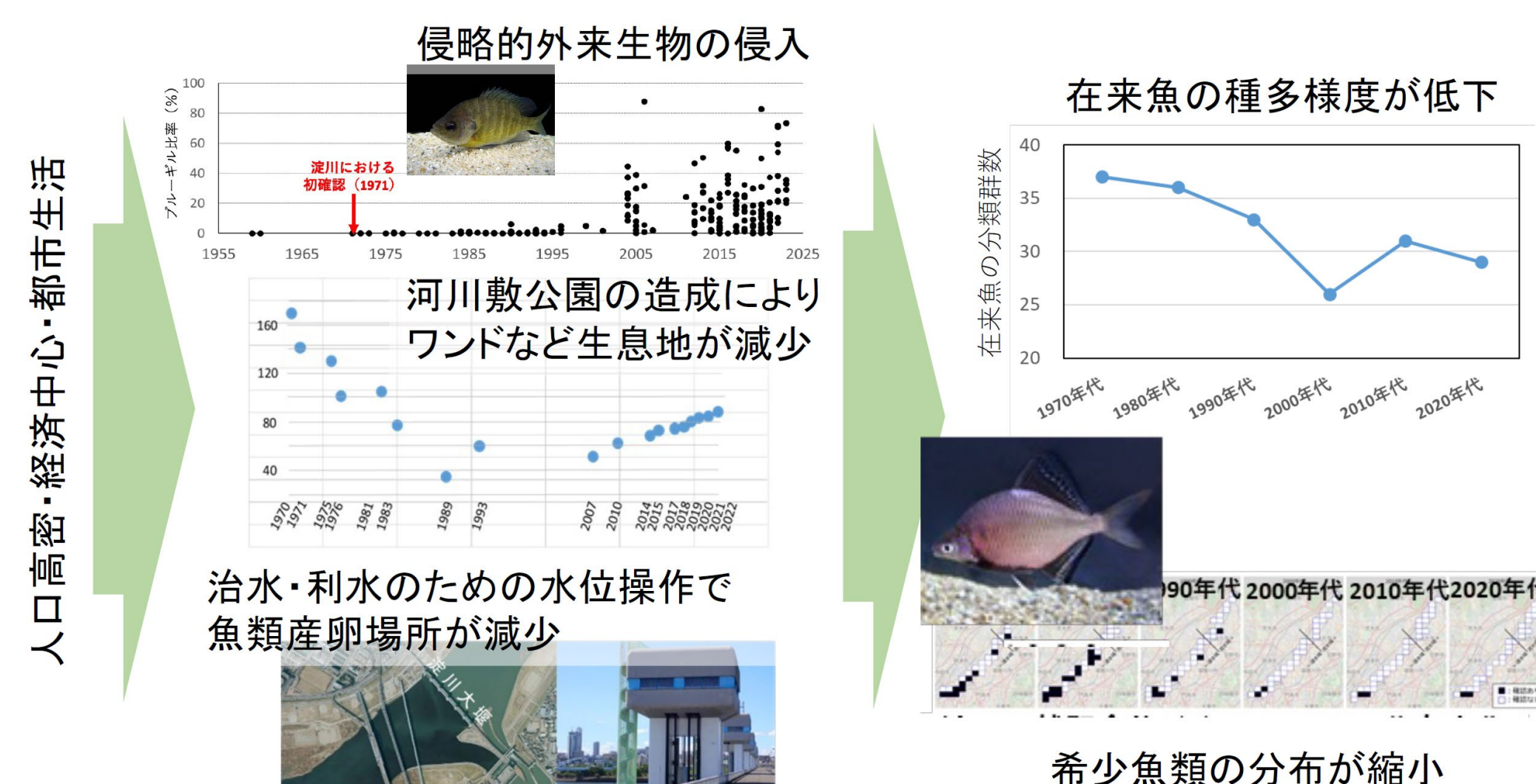


- イタセンパラなど希少になった在来魚を例に、持続可能な社会経済の活動と生物多様性保全の両立を図れる未来都市のかたちを探ります。



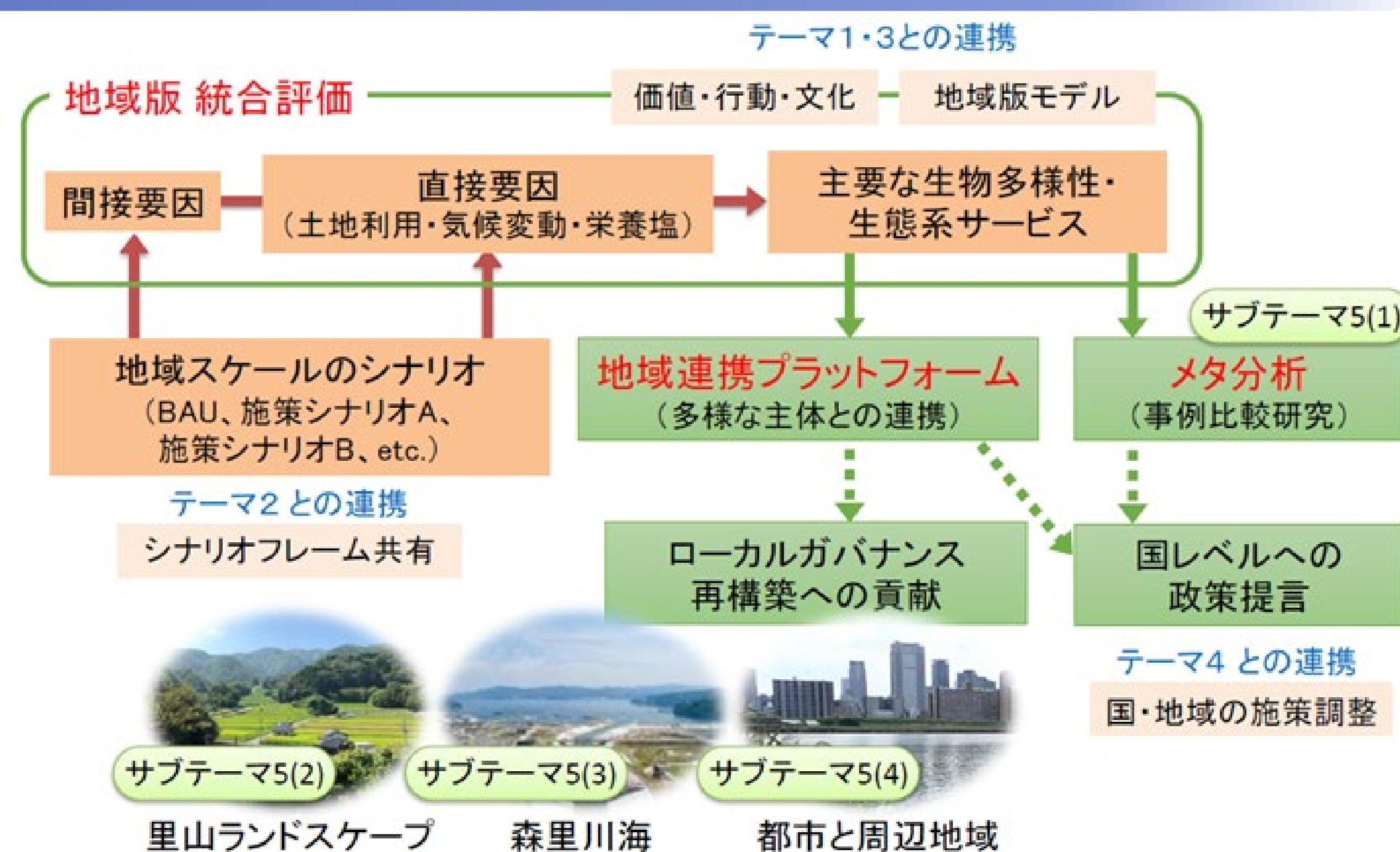
※ <https://iam-b.jp/project/theme5/>

- ・ 淀川では、在来魚の種多様度が低下、分布域の減少、絶滅リスクの増大
- ・ 外来魚の侵入、河川公園整備や水位操作による生息地の消失などが原因に



方法：社会－生態システムを背景とした将来シナリオの分析

- 全国の様々な関連分野の研究者と協働して、ヒトの意識をも考慮しながら四つの危機の根本にあるものを考えます。
- 私達が望む都市の将来像をより具体化したうえで、どのような道筋で持続可能な社会に至ろうとするのかを話し合います。
- 研究成果の社会実装に向けて、様々な主体と協議するための場づくりに取り組みます。



※ <https://iam-b.jp/project/theme5/>